

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

公立大学法人 名古屋市立大学

## (2) 大学名

名古屋市立大学

## (3) 大学の位置

〒467-8603

愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地

(〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地)

## (4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(ニシノ ヒトオ) 西野 仁雄 (平成18年4月)	(トガリ ハジメ) 戸苅 創 (平成22年4月)	任期満了に伴う退職・選任(22)
学長	(ニシノ ヒトオ) 西野 仁雄 (平成18年4月)	(トガリ ハジメ) 戸苅 創 (平成22年4月)	任期満了に伴う退職・選任(22)
研究科長	(ミズカミ ハジメ) 水上 元 (平成19年4月)		
学科長等			

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例)平成19年度に報告済の内容 (19)

平成22年度に報告する内容 (22)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。

・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称，定員，入学者の状況等

- (注)・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等，定員を定めている組織ごとに記入してください。  
 ・ 様式は，平成20年度開設の博士後期課程の場合（平成22年度までの3年間）ですが，開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が2年以下の場合には欄を削除し，4年以上の場合には，欄を設けてください。）

(5) - 調査対象研究科等の名称，定員

調査対象研究科等の名称（学位）	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
薬学研究科 創薬生命科学専攻（博士前期課程）  修士（薬科学）	2 年	36 人	72 人	基礎となる学部等  薬学部 生命薬科学科

- (注)・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 定員を変更した場合は，「備考」に変更前の人数，変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。

(5) - 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員超過率	備考
		人	人	人	倍	
A	入学定員	(-) -	(-) -	(-) 36	1.03	
	志願者数	(-) -	(-) -	(-) 45		
	受験者数	(-) -	(-) -	(-) 45		
	合格者数	(-) -	(-) -	(-) 43		
B	入学者数	(-) -	(-) -	(-) 37		
	入学定員超過率 B / A	(-) -	(-) -	(-) 1.03		

- (注)・ ( )内には，社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 「社会人」については，届出書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には，開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については，小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位まで記入し，平均入学定員超過率も同様の方法としてください。  
 ・ 「平成22年度」には，平成22年5月1日現在の状況を記入してください。  
 ・ 「平成20～21年度」には，確定した数値を記入してください。

(5) - 調査対象研究科等の在学者の状況

学年	報告年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
1年次		「-」	「-」	[ 2 ] 37	
2年次		/	「-」	「-」 -	
3年次		/	/	「-」 -	
計		「-」 -	「-」 -	[ 2 ] 37	

- (注)・ [ ]内には，留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成19年度	計 [ - ] -	(累積)計 [ - ] -	[ - %]
	うち平成19年度入学者 - 人	うち平成19年度 - 人	- %
	(主な退学理由)		
平成20年度	計 [ - ] -	(累積)計 [ - ] -	[ - %]
	うち平成19年度入学者 - 人	うち平成19年度 - 人	- %
	うち平成20年度入学者 - 人	うち平成20年度 - 人	
	(主な退学理由)		
平成21年度	計 [ - ] -	(累積)計 [ - ] -	[ - %]
	うち平成19年度入学者 - 人	うち平成19年度 - 人	- %
	うち平成20年度入学者 - 人	うち平成20年度 - 人	%
	うち平成21年度入学者 - 人	うち平成21年度 - 人	
(主な退学理由)			
平成22年度	計 [ 0 ] 0	(累積)計 [ 2 ] 37	[ 0 %]
	うち平成19年度入学者 - 人	平成19年度 - 人	0 %
	うち平成20年度入学者 - 人	平成20年度 - 人	
	うち平成21年度入学者 - 人	平成21年度 - 人	
	うち平成22年度入学者 0人	平成22年度 37人	
(主な退学理由)			

- (注)・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（%）を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
  - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
    - ・就学意欲の低下
    - ・学力不足
    - ・他の教育機関への入学・転学
    - ・海外留学
    - ・就職
    - ・学生個人の心身に関する事情
    - ・家庭の事情
    - ・除籍
    - ・その他
  - ・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
  - ・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

## 2 授業科目の概要

< 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻 >

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	創薬生命科学基礎	1・2前前		1					3	4	2	1		兼1 教員の異動 (22)
	創薬生命科学基礎	1・2前前		1				4	3	3	3			
	創薬生命科学基礎	1・2前前		1				5	4	1	4		兼1 教員の異動 (22)	
	創薬生命科学基礎	1・2前前		1				7	2		6			
	小計(4科目)	-	0	4	0	-	-	19	14	8	14	0	兼2	-
専門科目	薬化学分野 医薬化学	薬化学特論	1・2前後	1					1	1	1			体制強化(22) 教員の退職 (22)
		精密有機反応学特論	1・2前後	1					1	1		1		
		薬品合成化学特論	1・2後前		1					1	1			
		機能分子構造学特論	1・2後後		1					4	1	1		
	生命分子薬学分野 生命分子薬学	生体超分子システム解析学特論	1・2前後		1					1	1		1	兼1 教員の退職採用 (22)
		コロイド・高分子物性学特論	1・2前後		1					1	1	4	1	
		生命分子構造学特論	1・2後後		1						1		1	
		分子生物薬学特論	1・2後後		1					1	1	1		
		薬物送達学特論	1・2前後		1					1				
	医療薬学分野 薬学分子機能	生薬学特論	1・2前後		1					1	1		1	兼1 体制強化(22) 教員の退職 (22)
		生体防御機能学特論	1・2後後		1					1	1		1	
		遺伝情報学特論	1・2後前		1					1	1		1	
		細胞分子薬効解析学特論	1・2前後		1					1	1	1		
		病態生化学特論	1・2前後		1					1			1	
	医療薬学分野 医療薬学	薬物動態制御学特論	1・2後前		1					1	1		1	兼1 体制強化(22) 教員の退職 (22)
		病態解析学特論	1・2前後		1					1	1		1	
		医薬品代謝解析学特論	1・2後後		1						0		1	
		中枢神経機能薬理学特論	1・2前後		1					1	4		1	
		病院薬剤学特論	1・2後前		1					1		1	1	
	融合分野	臨床薬学特論	1・2後後		1					4		2	1	体制強化(22)
		薬工融合特論科目	1・2前後		1									
	特別講義科目	創薬生命科学特別講義	1・2後	2										兼4 オムニバス
小計(1科目)		-	2	0	0	-	-	0	0	0	0	0	兼4	-
特別演習	医薬化学特別演習	1~2通	8						3	4	2	1	兼1 教員の退職採用 (22)	
	生命分子薬学特別演習	1~2通	8						4	3	2	3		
	医療分子機能薬学特別演習	1~2通	8						5	4	1	4	兼1 教員の退職採用 (22)	
	医療薬学特別演習	1~2通	8						7	2		6		
	小計(4科目)	-	32	0	0	-	-	19	14	7	14	0	兼2	-
特別研究	医薬化学特別研究	1~2通	8						3	4	2	1	兼1 教員の退職採用 (22)	
	生命分子薬学特別研究	1~2通	8						4	3	2	3		
	医療分子機能薬学特別研究	1~2通	8						5	4	1	4	兼1 教員の退職採用 (22)	
	医療薬学特別研究	1~2通	8						7	2		6		
	小計(4科目)	-	32	0	0	-	-	19	14	7	14	0	兼2	-

(注)・届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。

・届出時の授業科目全て(兼任,兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載いただき,届出時より変更されているものは赤字で見え消し修正いただき,「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。

( 2 ) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
1	26	0	27	1	26	0	27	
				[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	

(注)・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[ ]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合： 1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

(注)・届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。  
・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

(注)・届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備考				
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 大学整備計画の進展 (22)				
	校舎敷地	182,995.16㎡ 175,598.16㎡	0㎡	0㎡	182,995.16㎡ 175,598.16㎡					
	運動場用地	19,071.00㎡ 26,468.00㎡	0㎡	0㎡	19,071.00㎡ 26,468.00㎡					
	小 計	202,066.16㎡	0㎡	0㎡	202,066.16㎡					
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡					
	合 計	202,066.16㎡	0㎡	0㎡	202,066.16㎡					
(2) 校 舎	専 用	196,336.27㎡ 141,672.43㎡	0㎡	0㎡	196,336.27㎡ 141,672.43㎡	大学全体 大学整備計画の進展 及び誤謬訂正(22)				
		196,336.27㎡ (-141,672.43㎡)	(0㎡)	(0㎡)	196,336.27㎡ (-141,672.43㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	8 1 室 7 2 室	演 習 室 1 1 3 室 1 1 6 室	実験実習室 5 5 室 1 1 5 室	情報処理学習施設 1 3 室 1 5 室	語学学習施設 0 室 2 室	大学全体 大学整備計画の進展 及び誤謬訂正(22)			
				(補助職員 0人)	(補助職員0+人)					
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 薬学研究科 創薬生命科学専攻(博士前期課程)		室 数 41 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	研究科全体  電子ジャーナルについては 田辺キャンパスで利用 可能タイトル数		
	薬学研究科 創薬生命科学専攻 (博士前期課程)	63,948〔35,520〕 <del>63,347〔35,305〕</del> (63,347〔35,305〕)	1,345〔651〕 <del>1,445〔667〕</del> (1,445〔667〕)	5,324〔4,282〕 <del>4,380〔3,479〕</del> (4,380〔3,479〕)	88 (88)	560 (560)	1 (1)			
	計	63,948〔35,520〕 <del>63,347〔35,305〕</del> (63,347〔35,305〕)	1,345〔651〕 <del>1,445〔667〕</del> (1,445〔667〕)	5,324〔4,282〕 <del>4,380〔3,479〕</del> (4,380〔3,479〕)	88 (88)	560 (560)	1 (1)			
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		誤謬訂正(22)				
	8,122.36	7,509.04 ㎡		518 席			773,333 冊			
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体 誤謬訂正(22)				
	3,267.9	3,680.94 ㎡ 野 球 グ ラ ン ド テ ニ ス コ ー ト								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	各経費は研究科全体 図書費には電子ジャーナル 及びデータベースの運用コストを含む 共同研究費として特別 研究奨励費が全学で 30,000千円計上され、 学長裁量により各教員 に配分	
		教員1人当たり研究費等	565千円 604千円	565千円 604千円	図書購入費	10,347千円	10,156千円 10,347千円	10,156千円 10,347千円		
		共同研究費等	30,000千円 30,700千円	30,000千円 30,700千円	設備購入費	4,705千円	4,705千円	4,705千円		
	学生1人 当たり 納付 金	区分	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		市民	767.8千円	535.8千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
		その他	867.8千円	535.8千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金をもって充当する。							

(注)・届出時の計画を設置届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。  
 ・「(3)教室等」「(5)図書・設備」等について、届出時に数値を記載する必要がなかった学部等(平成20年度届出以前)については、届出時の数値の記載は不要ですが、平成22年5月1日現在の数値を赤字で記入してください。届出時に数値を記載した学部等(平成21年度届出以降)については、届出時の数値を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。  
 ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。  
 ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定の数値を、下段には平成22年5月1日現在の数値を記入してください。  
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋市立大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
薬学部									
薬学科	6	60	-	300	学士(薬学)	1.22	平成18年度	愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地	
生命薬科学科	4	40	-	160	学士(薬科学)	1.20	平成18年度		
医学部									
医学科	6	95	-	555	学士(医学)	1.00	昭和25年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地	
経済学部									
公共政策学科	4	90	-	270	学士(経済学)	-	平成19年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地	
マネジメントシステム学科	4	80	-	240	学士(経営学)	-	平成19年度		
会計ファイナンス学科	4	60	-	180	学士(経営学)	-	平成19年度		
人文社会学部			(3年次)						
人間科学科	4	50	10	220	学士(人間科学)	1.05 (0.94)	平成8年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地	
現代社会学科	4	50	10	220	学士(現代社会学)	1.06 (0.94)	平成8年度		
国際文化学科	4	55	-	220	学士(国際文学)	1.10	平成8年度		
芸術工学部									
デザイン情報学科	4	40	-	160	学士(芸術工学)	1.05	平成17年度	愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号	
建築都市デザイン学科	4	40	-	160	学士(芸術工学)	1.04	平成17年度		
看護学部									
看護学科	4	80	-	320	学士(看護学)	1.02	平成11年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地	
大学の名称	名古屋市立大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
薬学研究科									
創薬生命科学専攻(前期課程)	2	36	-	36	修士(薬学)	1.03	平成22年度	愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地	創薬生命科学専攻(前期課程(旧))及び医療機能薬学専攻(前期課程)は平成22年4月学生募集を停止
創薬生命科学専攻(前期課程)	2	40	-	40	修士(薬学)		平成13年度		
創薬生命科学専攻(後期課程)	3	10	-	30	博士(薬学)	0.42	平成13年度		
医療機能薬学専攻(前期課程)	2	32	-	32	修士(薬学)		平成13年度		
医療機能薬学専攻(後期課程)	3	8	-	24	博士(薬学)	0.87	平成13年度		



医学研究科						0.94		
医科学専攻 (修士課程)	2	10	-	20	修士(医科学)	1.20	平成20年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
生体機能・構造医学専攻 (博士課程)	4	15	-	60	博士(医学)	1.09	平成12年度	
生体情報・機能制御医学専攻 (博士課程)	4	15	-	60	博士(医学)	0.73	平成12年度	
生体防御・総合医学専攻 (博士課程)	4	18	-	72	博士(医学)	1.02	平成12年度	
予防・社会医学専攻 (博士課程)	4	4	-	16	博士(医学)	0.35	平成12年度	
経済学研究科						0.99		
経済学専攻 (前期課程)	2	20	-	40	修士(経済学)	0.95	平成20年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地
経済学専攻 (後期課程)	3	5	-	10	博士(経済学)	0.46	平成20年度	
経営学専攻 (前期課程)	2	20	-	40	修士(経済学)	1.20	平成20年度	
経営学専攻 (後期課程)	3	5	-	10	博士(経済学)	0.86	平成20年度	
人間文化研究科						1.04		
人間文化専攻 (前期課程)	2	25	-	50	修士(人間文化)	1.04	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地
人間文化専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(人間文化)	1.04	平成14年度	
芸術工学研究科						0.89		
芸術工学専攻 (前期課程)	2	25	-	50	修士(芸術工学)	0.94	平成12年度	愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号
芸術工学専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(芸術工学)	0.60	平成14年度	
システム自然科学研究科						1.07		
生体情報専攻 (前期課程)	2	15	-	30	修士(生体情報)	1.21	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地
生体情報専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(生体情報)	0.64	平成14年度	
看護学研究科						0.90		
看護学専攻 (前期課程)	2	24	-	48	修士(看護学)	0.97	平成15年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
看護学専攻 (後期課程)	3	5	-	15	博士(看護学)	0.72	平成17年度	

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校等の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・設置届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、「備考」に「平成 年より学生募集停止」と記入してください。

## 5 教員組織の状況

< 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻 >

### (1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	小田嶋 和徳 ( )	平成22年4月	機能分子構造学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	専	准教授	池田 慎一 ( )	平成22年4月	機能分子構造学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	平成22年3月 小田嶋教授退職のため 担当部分を同一研究室の 教員で担当(22)
					専	講師	白井 直洋 ( )	平成22年4月		
専	准教授	田邊 光男 ( )	平成22年4月	中枢神経機能薬理学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	専	教授	小野 秀樹 ( )	平成22年4月	中枢神経機能薬理学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	平成22年3月 田邊准教授退職に伴い、 担当部分を同一研究室の 教員で担当 近日中に後任補充予定 (22)
					専	助教	山本 昇平 ( )	平成22年4月		
専	講師	宮田 勇 ( )	平成22年4月	コロイド・高分子物性学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	専	准教授	奥蘭 透 ( )	平成22年4月	コロイド・高分子物性学特論 創薬生命科学基礎 生命分子薬学特別演習 生命分子薬学特別研究	平成22年3月 宮田講師退職に伴い、 後任を補充 (22)
専	助教	馬場 敦 ( )	平成22年4月	病態生化学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	専	助教	河野 孝夫 ( )	平成22年4月	病態生化学特論 創薬生命科学基礎 医療分子機能薬学特別演習 医療分子機能薬学特別研究	平成22年3月 馬場助教退職に伴い、 後任を補充 (22)
					専	教授	中村 精一 ( )	平成22年4月	薬品合成化学特論 創薬生命科学基礎 医薬化学特別演習 医薬化学特別研究	平成22年4月から 教育体制の充実を図るため 採用。科目の一部を 担当(22)
					専	教授	松永 民秀 ( )	平成22年4月	臨床薬学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	平成22年4月から 教育体制の充実を図るため 採用。科目の一部を 担当(22)
					専	助教	岩尾 岳洋 ( )	平成22年4月		
					専	助教	伊藤 友香 ( )	平成22年4月	医薬品代謝解析学特論 創薬生命科学基礎 医療薬学特別演習 医療薬学特別研究	平成22年4月から 教育体制の充実を図るため 採用。科目の一部を 担当(22)

(注)・設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、表題を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、就任年度に関わりなく、「届出時の計画」には開設時現在の満年齢を、「変更状況」には平成22年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

( 2 ) 専任教員数

届出時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
18	14	9	12	53	0	19	14	8	14	55	0	
(18)	(14)	(9)	(12)	(53)	(0)	[ 1 ]	[ - ]	[ 1 ]	[ 2 ]	[ 2 ]	[ - ]	

(注)・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[ ]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合： 1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	教授	小田嶋 和徳	
2	准教授	田邊 光男	
3	講師	宮田 勇	

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

講義・演習については、新規採用した教員、今後採用予定の教員および既存の専任教員により対応が可能であり、特段の問題は生じない。  
冊子「履修の手引きと授業計画」で授業計画を明示するとともに、ガイダンスを開催して学生に周知した。

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 7 その他全般的事項

< 大学院薬学研究科 創薬生命科学専攻 >

### (1) 設置計画変更事項等

届出時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	<p>本年4月1日に開設したばかりであり、現時点では変更事項はない。設置届出書の内容に従って教育が進行する見通しである。</p>

- (注)・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

### (2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

<p>実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>全学的な組織として、名古屋市立大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会が設置されている。薬学研究科から選出された委員が研究科におけるFD活動を担当している(別添資料1【名古屋市立大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規定】)。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>平成21年度は4回の委員会が開催されており、いずれの会議にも委員長1名を含む11名の委員(うち薬学研究科1名)が参加している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>議事録参照(別添資料【名古屋市立大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会議事録】)。</p> <p>実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法等についての研究会</li> <li>・ 新任教員のための研修会</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法等についての研究会：全学的なレベルでの取組みと薬学研究科としての取組みの2つのレベルで実施している。</li> <li>・ 新任教員のための研修会：平成22年度から薬学研究科として新任教員のためのガイダンスを実施している。</li> </ul> <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法等についての研究会：大学院創薬生命科学専攻が開設された平成22年度4月以降ではまだ開催されていない。それ以前の直近のものでは、全学レベルでの講習会として大学院生のTA制度をテーマにしたものが平成22年2月22日に(薬学研究科教員参加者数7名)、研究科レベルでは「プレゼンテーション資料作成テクニックとインストラクショナル・デザインについて学ぶ」ワークショップが平成22年3月20日に(薬学研究科教員9名参加)、それぞれ開催されている。</li> <li>・ 新任教員のための研修会：平成22年度4月1日付で着任した教員全員と平成21年度中に着任した教員のうち希望者を対象として4月20日に研修会を開催した(参加者は新任教員5名、その他の教員11名)。</li> </ul> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>開設直後であり、今後状況把握を行なっていく。</p>
--

- (注)・ 「 a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
- 「 実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本大学院薬学研究科創薬生命科学専攻（博士前期課程）は、平成24年度に開設予定の博士後期課程とのつながりのもとで、わが国の創薬産業も未来を担うにたる人材の育成をめざして設置されている。この人材養成の目標を達成するために、物質科学に関する知識・技術と生命科学に関する知識・技術をバランスよく身につけ、薬学という視点から問題の解決に当たれる能力の涵養を博士前期課程の教育目標としている。そのために、教育課程においては、大学院導入科目として基礎講義科目を開講して1年次の前期に履修させること、幅広い分野について先端的な知識を習得させるための外部講師による特別講義を、これまでのように分野ごとにバラバラに行うのではなく、創薬生命科学特別講義として系統的に実施すること、特別研究科目や特別演習科目においても、総合演習を実施するなどの特色ある編成を行なっている。本専攻は、平成22年4月に開設されたばかりであるが、すべての科目が予定通り開講される。本年度の入学者は37名であり、定員を充足している。これらのことから、新専攻の設置は届出時の計画通りにおおむね進行していると考えている。

#### 自己点検・評価報告書

##### a 公表（予定）時期

- ・平成22年7月1日 公表予定

##### b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（本年7月1日を予定）

#### 認証評価を受ける計画

- ・平成22年度に評価機関（大学評価・学位授与機構）の評価を受けることを決定しており、学内で準備中。

（注）・届出時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。